

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

石材積出港「廈門港」の歴史をご紹介！

JSC 貿易部ニュース 中国編



業界では知らない人のいない石材の積出地「福建省・廈門港」。

今月のメルマガでは、その廈門港の近代史と現在の規模についてご紹介したいと思います。

歴史を遡ること 150 年前。日本の横浜港より少し早く開港した廈門港は、中国東南沿海地域の海上貿易の中心地として歩みを始めます。ケンブリッジ大学が出版している「中華民国史」には、このころすでに廈門港が海運の重要拠点であったと記されています。

しかし、やがて栄華にも衰退の影が忍び寄ります。

かつて万国の商船が行き交った廈門港は、近代に入ると度重なる戦禍とともに海運拠点としての機能も衰退していきます。

長らく繁栄から遠ざかっていた廈門港ですが、鄧小平氏による改革開放後、ようやく活気を取り戻し始めます。

1980 年代初頭には沿岸の旅客航路を再開し、続いてコンテナ輸送も開始します。

そして石材輸出もまだまだ多かった 2011 年頃には中国で 4 番目の規模の海運拠点となり、2017 年には年間取扱量が 20 フィートコンテナ換算で 1000 万個を突破し、世界でも有数の貿易港に発展します。

現在の廈門港ですが、世界各地に向け 191 本の定期航路を持ち、54 の国と地域にある 151 の港と結ばれる巨大な貿易港に発展しています。年間貨物量で横浜港の 2 倍、コンテナ取扱量は 8 年連続で 1000 万個規模を維持していますが、こちらも横浜港の 3 倍の規模になっています。

混雑故に、時々船のスケジュールの乱れでご迷惑をお掛けすることもありますが、廈門港は中国の海外輸出を支える拠点として、いまも石材業界を支えてくれています。



今月の石種情報

さて、今月の石種情報ですが、最近安定した 654 系の石が少なくなっていますが、そんな中、「使えそうな 654 は、どれ?」とのご質問を受けることが多いので 654 特集ということで、いま現在のラインナップを一挙ご紹介です。

平和 654 (栗花石)



丁場はずっと不安定で、石が出たり、止まったりを繰り返しています。しかし、最近はほぼ新しい石が採掘されていない状況です。



当社の協力工場でも 100 m³ほどの原石在庫を確保していますが、玉石状のものが多く、黒玉などの問題も出るため、加工には少し余裕を持った納期を頂いております。色目も以前の石に比べ、少し薄くなっていますので、そのあたりもご注意を頂ければと思います。

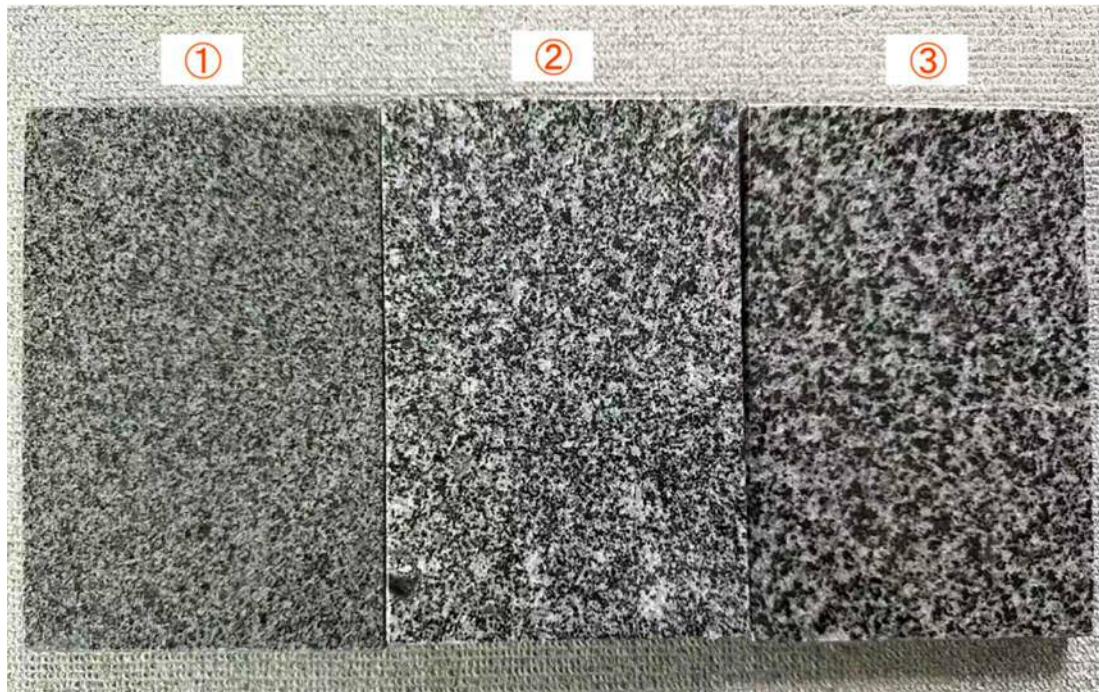
長尺対応は、最長 9 尺まで。天板などの大材は 4×4 尺くらいまで対応可能です。

カンボジア 654 中目 (青山 654)



続いて今話題のカンボジア産の石種ですが、カンボジア 654 は数種類あります。代表的なところで、

- ① 細目のカンボジア 654 (長泰 654 に似ていてカンボジア長泰とも言われています)
- ② 中細目のカンボジア 654、
- ③ 中目のカンボジア 654 (青山 654、カンボジア深山 654 とも言われています)



① のカンボジア細目、②の中細目のカンボジア 654 は、黒玉の発生率が非常に高い石なので取扱いには十分注意ください。

JSC 貿易部のオススメは、一番安定している③の「カンボジア 654 中目（青山 654）」です。オススメではありますが、こちらも黒玉や原石の個体差による色違いは若干ありますので、加工納期は多少長めにいただけ幸いです。

こちらの石は協力工場に在庫量 30 m³を確保しています。長尺対応は 10 尺ほどまで、大材対応は 4×4 尺くらいまで対応できます。

甫田 654



取扱い工場は非常に少なくなっていますが、当社の協力工場に 20 m³ほどの在庫があります。黒玉と目の流れが少しありますが、長さ 9 尺、最大角周りは 4×4 尺くらいまで対応可能です。

青雲石



番外編になりますが、生産工場が限定されていることから使用頻度が減ってきていますが、比較的安定した石です。当社の協力工場に 15 m³の在庫があります。最長 9 尺、最大角周り 4×4 尺くらいまで対応可能です。

さて、今回はご質問の多い「654」についてご紹介しましたが、共通して言えるのは多い少ないはあるものの、やはり黒玉問題がついて回るといふことです。

ということで、ご注文の際には納期に余裕をもっていただけないと、より慎重に検品ができたりして、より良い製品をお届けすることができると思いますので、ご協力をいただけると幸いでございます。

654 系統の石でご質問があれば、遠慮なく弊社営業員、もしくは営業員を通じてお気軽に貿易部までお尋ね下さいませ。

2025 年 12 月のメルマガは以上でございます。最後までお読みいただき有難うございました。

2025 年も残りわずかとなりました。

一年間のご支援に心より感謝申し上げます。新しい年も皆さまと共に歩んでいけることを楽しみしております。

謝謝！

2025/12/01